

市民と議会との対話集会報告書

平成30年9月6日
厚生環境教育委員会

1. 対話相手方

社会福祉法人 太陽の家

2. テーマ

「障がい者の就労と雇用」について

3. 場所及び日時

場所：社会福祉法人 太陽の家

日時：平成30年7月21日（土）16時00分～17時30分

4. 内容

参加者が4つの班に分かれ、ワークショップ形式にて対話を行った。

対話の中で、様々な課題、意見及び対策が出された。主な内容は、下記のとおり。

《課題》	《意見・対策》
●各班共通の課題	
・障がい者に適した環境整備	} ・日よけ雨よけの設置 ・バリアフリー住宅の建設 ・バスの増便、低床バス又はリフト付バスの増加 ・障がい者自身の就労能力向上 ・労働局等から企業への出前講座の実施
・住居の少なさ	
・交通の利便性	
・安定した就労場所の確保	
●その他の課題	
・精神障がい者への理解・支援体制	⇒ ・精神障がい専門のカウンセラー設置
・精神障がい者の受入が低い	⇒ ・研修等で精神障がい者への理解教育を行う

5. 所感

市民との直接対話をする機会を得られたことは、非常に有意義であり、その必要性を改めて認識いたしました。福祉行政は専門的な知識が多岐に渡るため、障がい者のニーズに合う施策を進めるためには、その当事者のみならず、関係者（機関）の声を丁寧に聞くことの大事さを学んだ時間でした。行政側には、障がい者や関係者等が市へ相談するにあたり、スムーズで丁寧・的確な対応が出来るよう、より一層の体制の充実を期待する。

障がい者雇用全国5番目の大分県の中でも、別府市は重要な位置付けであり、また、大分県は障がい者雇用率日本一に向け支援の充実に取り組んでいる。今後、議会は行政と共に、障がい者福祉の充実・向上に向けた取り組みに対し、積極的な後押しを行ってまいりたい。